

# 平成 27 年度 広島県生物多様性普及員 人材育成講座（自然再生編） 第 2 回講座終了

## 1 第 2 回講座は、実践型観察会（第 1 弾）

台風の影響により、風と小雨が降るなか、平成 27 年 7 月 12 日（日）に第 2 回講座を開催し、15 名が出席しました。今回は、実際に受講生が生物多様性を「伝える」ことを想定し、親子を対象とした実践型観察会を実施。会場である霧ヶ谷湿原（山県郡北広島町八幡）で夏の植物観察を行いました。



観察会の参加者は、広島市内を中心に公募した親子など 33 名（子ども 22 名、保護者 11 名）で、広島駅からバスに乗り、集合場所である「高原の自然館（北広島町八幡）」へやってきました。開始時間は 10 時でしたが、予想以上にバスの到着が早まったため、早々に観察会をスタートしました。



早々に観察会をスタートしました。

オリエンテーションとして、主催者を代表して（株）無垢～ムーク～の道原さん、広島県自然保護課の神川課長にあいさつをいただき、本日の講師である和田秀次先生を紹介しました。また、簡単なタイムスケジュールを説明した後、早々に霧ヶ谷湿原へ移動しました。

## 2 指令方式による植物探しに挑戦！



まずは、今日の観察会を有意義に過ごすために、「見る」トレーニングを行いました。間違い探しの要領で、まずはスタッフをよく観察してもらい、目隠しをしてもらっている間に数箇所変化をつけ、目を開けてもらってから「何が変わったか」を探してもらいました。「帽子が何か変…」「リュックが後ろから前にきてる」など、子どもたちは一生懸命違いを捜します。全部で 3 箇所の変化には全員気付くことができました。



「見る」トレーニングができたので、参加者 33 名を 4～6 名程度の小グループに分けました。6 つのグループができ、それぞれのグループに 1～2 名の講座受講生が、グループサポーターとして配置されました。受講生には「グループメンバーの安全管理」と「子どもたちとの接し方を学ぶ」などの役割が与えられました。また 15 名の受講生のうち 4 名には運

営側のスタッフとしての役割が与えられ、「活動範囲内の安全管理」「子どもの動き方、反応を学ぶ」などを体験しました。

いよいよ植物の観察です。講師が全員を連れて歩くのではなく、各グループに指令を出して、その指令をクリアする「指令方式」による植物観察を行いました。今回の指令は「白い花」「手の平よりも大きい葉っぱ」「イガイがしているもの」「黄色や紫の花」とし、それぞれに該当する植物を探してデジカメで撮影するという形で行いました。



観察の方法を確認し、全員で危険な生き物（ウルシやツタウルシ、マムシ、ハチなど）を確認しました。準備ができたグループから順次、霧ヶ谷湿原の植物観察へ出発です！

霧ヶ谷湿原の木道を歩きながら、各グループ思い思いの場所で「白い花、発見！」「これ、イガイがしてない？」「かわいい花じゃね」「これ、写真に撮って」など、メンバーで相談しながら写真を撮っていました。また木道の途中に、モリアオガエルの卵塊が見られる場所があり、なかなか見られない卵塊に「黒いものが動いてる！」「あれが卵？」などの驚きの声が上がっていました。途中、雨・風共に強くなる場面もあり、



参加者の視点による自由な植物探しは予定していた時刻よりも早く終了。まだ時間に余裕があったため、講師の和田先生が急遽、参加者全員に霧ヶ谷湿原の再生事業について解説をしてくださいました。



スタート地点に戻った参加者が、グループごとに撮影した写真を確認。全部で 10 枚程度まで写真の枚数を絞り込みました。「同じものを撮っとるわ」「これは何を撮ったのかな？」「ピンボケじゃ」など、大量に撮影した写真から 10 枚まで絞り込むのに一苦労。何とか 10 枚に収め、スタッフがデジカメを回収し、フィールドでの観察を終了しました。

### 3 昼食休憩中に、高原の自然館を見学



参加者及び受講生はバスで再び高原の自然館へ移動し、昼食休憩をとりました。休憩中、高原の自然館にある展示を見学。そこには霧ヶ谷湿原をはじめとした八幡工リアの湿原で見られる動植物の写真や剥製、標本などが展示されています。中でも人気だったのがヒキガエル。参加者の見学に合わせて餌やりが行われ、大歓声が上がりました。

## 4 撮影した写真を使った植物についてのお話を実施

午後は、会場を「芸北文化ホール」に移し、各グループが撮影した写真を使って、夏の湿原の植物の解説を行いました。



各グループが撮影した写真を1枚1枚、スクリーンに映し出し、和田先生からその植物のお話を聞きました。途中、何枚か何を撮影したのかがわかりづらいものがあり、撮影したグループに「これは、ピントが合っている植物を撮ったのかな？」とインタビューをしながら確認し、それぞれ「外来種」「在来種」「湿原特有」「スペシャル（和田先生が見て欲しかったもの）」の区分をしながら整理していきました。和田先生からは「全開なのにハンカイソウ」「オカトラノオは、トラの尻尾に似ているから名前が付いたよ。トラの尻尾の形はどうなっているかな？ 3択クイズです」など笑いを交えた解説をしていただき、終始、和やかな雰囲気で



観察結果を全員で共有しました。

今回の観察会では、28種類の植物と4種類の昆虫、1種類の両生類の33種類の生物を見ることができました。昆虫は、受講生の石谷さんに協力してもらい、トンボやヒメシジミなどの生き物について教えてもらいました。



## 5 霧ヶ谷湿原の自然再生事業について

植物の解説後、観察会のフィールドとなった「霧ヶ谷湿原」の自然再生事業について、改めて和田先生から解説をしていただきました。牧場にするために土地を乾燥させたこと、湿原を再生するために乾いた土地に水路を掘って水を流し入れたこと、よその土地から何も持ち込まずに自然の力で今のような湿原になっていることをお話いただきました。



## 6 表彰式とふりかえり



和田先生に協力をしていただき、各グループが午前中に撮影した写真に得点をつけ、表彰を行いました。外来種には1点、在来種3点、湿原特有种5点、スペシャル10点とし、各グループの結果を発表！悲鳴にも近い大歓声が研修室内に響き渡り、第1位から順に景品となったキャンディを選び、大人も含めメンバー全員で分けました。



観察会参加者と受講生全員に、ふりかえりシートを使って今日 1 日のふりかえりを行いました。子どもたちからは「いろいろな植物を知ることができた」「カエルの卵が見られて楽しかった」「絶滅危惧種が見られた」「飴をもらえてよかった」などの感想が聞かれました。一方、保護者からは「初めて聞く植物ばかりで、多くの植物の名前を知ることができた」「写真を撮って、後でみんなで学習する方法が面白かった」などの感想が聞かれました。



グループサポーターとなった受講生からは、「安全管理の大切さを学んだ」「導入やふりかえりの仕方が勉強になった」「子どもたちの自由さは、なかなかコントロールができない」などの感想が聞かれました。運営スタッフの受講生からは「雨が降っていると滑るなど、天候によって安全管理の配慮点が違うことがわかった」「本部の設置やケガ対応、タイムスケジュールの管理など、終始、気を配っていた」「子どもたちは実際にどこまで話を聞いてくれるのか、ボーダーがわかった」「子どもたちは興味があること、ないことがはっきりしていた」などの感想が聞かれ、観察会の参加者では決して気付かない点に気付いたようでした。

恒例となった「漢字 1 文字による感想」では、「個」「雨」「素」「快」「純」「種」「野」「安」「湿」「視」「共」「再」「痒」「楽」「子」「動」などさまざまで、それぞれに得るもの・考えるものがあったようでした。

次回は川の生き物観察実践です。今度こそ天気になりますように！ 祈るばかりです。

【作成】株式会社無垢～ムーク～（三原市久井町江木 1611-1）

【発行】平成 27 年 7 月 17 日